

おぎはら耳鼻咽喉科の言語聴覚士が月1回発行するカスタネット通信の第11号です。来月、おぎはら耳鼻咽喉科は開院1周年を迎えます。待合室の壁の飾りつけなど、1周年記念行事を考え中です。お楽しみに！ 今月号は人工内耳についてのおはなしです。

## 人工内耳

カスタネット通信ではこれまで補聴外来、補聴器体験会、難聴教育など「補聴器」について何回か取り上げてきました。今回は、難聴の方がことば・音を聞くためのもう1つの手段である「人工内耳」についてのお話です。



GNヒアリング ジャパンHPより  
日本コクレア HPより

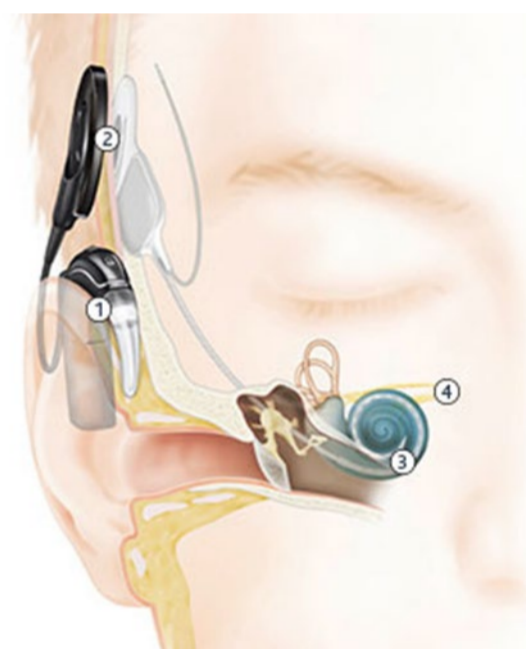
左が補聴器、右が人工内耳です。見た目は似ていますね。見た目の違いは、人工内耳の方は円盤型の部品がついているところでしょうか。その他、どんな違いがあるか説明していきたいと思います。

### 補聴器と人工内耳の相違点

#### 1. 手術の必要性の有無

補聴器はマイクで集めた音を増幅器で大きくし、耳に届けます。一方、人工内耳はマイクで集めた音を電気信号に変え、耳の中の聴神経を直接刺激します。その刺激を伝えるための電極を耳の中に埋め込む手術が必要になります。体内に埋め込んだ部品とつなげるためのものが先ほどの円盤型の部品です。

手術で体内に埋め込まれた電極と体外部(プロセッサ)⇒








日本コクレアHPより

#### 2. 適応聴力と年齢

補聴器は軽度難聴の方から重度難聴の方まで、装用者の聴力に合わせた補聴器が用意できます。一方、人工内耳の手術適応になるのは平均聴力レベルが90dB以上の重度難聴です。また補聴器は0歳の赤ちゃんも使用できますが、人工内耳は手術を伴うため原則1歳以上とされています。人工内耳の手術を受ける前に、良く適合された補聴器を装用してもことばの聞き取りが改善しない、ということの評価する必要があります。

#### 3. 種類

補聴器は多くのメーカーがたくさんの機種を発売しています。おそらく数百種類あるのではないのでしょうか。人工内耳を作っているのはコクレア 、メドエル 、アドバンスト・バイオニクス(AB) 、オーティコン 。ニューロトロン・バイオテクノロジー  の5社です(おそらく)。このうち日本で認可されているのはコクレア、メドエル、ABの3社、オギジビで機器の調整ができるのはコクレアの人工内耳です。

日本で人工内耳手術が開始されたのは1985年です。2017年までに累計11,066耳の手術がされました。手術件数は年々増え、人工内耳は重度難聴者のことばの聞き取りに大きく貢献しています。しかし人工内耳は万能の機器ではありません。新しい音に慣れていくこと、機器の調整を継続して行うことが必要です。この点は補聴器と一緒にですね。

## オギジビ文庫からのお知らせ

お気づきの方もいらっしゃると思いますが、オギジビ文庫の蔵書を整理し、少し冊数を減らしました。

- 多すぎると出しにくいし片付けにくい
- 読みたい本を選びにくい
- 新しい月刊絵本が続々入るので、  
その分のスペースを空ける必要がある

といったことが理由です。今回の整理では主に秋冬の絵本をしまいました。お気に入りの絵本が見当たらなくなっていたらごめんなさい、半年後に復活します。

さて、オギジビ文庫の絵本は聴力検査室に並べて紫外線で滅菌しているのですが、並べながら「この本あまり読まれてなさそう」と思う本がまだまだたくさんあります。今年度はこれまで日の目を見てこなかった絵本も絵本マスターが紹介してくれる予定です！

## お花見



4月といえば桜ですね。景色がピンク色に染まると、春だなあと心が弾みます。例年4月の第1週は医局(前職)の集まりが新宿であり、その前に新宿御苑で桜を楽しむ、ということが私の中での恒例行事となっていました。家族や友人とお花見をしている人々を横目に、あまり時間もないのでスーツ&ヒールでガシガシ歩き回ります。写真は2019年のものです。ソメイヨシノはほぼ終わり、

八重桜が満開の時期です。最近、といっても2018~19年のはなしですが、満開の桜の前でウェディングフォトを撮っている方を何組も見かけました。おそらく東南アジアの方々でしょうか。人生の大切な瞬間の記録に日本の桜が選ばれるのは嬉しいことですね。この原稿を書き始めた3月半ばの情報では、緊急事態宣言の最中なので、新宿御苑は臨時休園中とのことでしたが、その後事前予約制になったようですね。誰もいない静かな御苑で再開園を待ちながら咲き誇る桜、どんな感じなのでしょうか。(井上理絵)



## 「参加することに意義がある」

コロナ禍が収まらず、東京オリンピック・パラリンピック開催がどうなるか、多くの関心を集めています。4年に一度の国際競技大会は練習に励む選手たちの大きな目標です。「一番光るメダルを取る」と代表選手は答えます。それを聞いたたび、私は選手の背負うプレッシャーに思いを巡らし、勝手にお母さんの気持ちになって「無理しないでね」と声をかけたくくなります。1964年の東京オリンピックのテレビ放送を固唾(かたず)をのんで見つめた子どもたちが学んだスローガンは「参加することに意義がある」でした。そういう時代だったのですね、、、。「勝たなくてもいい、参加することが大事なんだよ」と言われて育った私たちは幸せでした。「勝つこと」ばかり強調されるのはなかなかつらい。「負ける」ことを恐れず挑戦する勇気を持てるよう、これからを生きる子どもたちを励ましていきたいと思うこの頃です。(鈴木恵子)

編集後記：東京では桜の開花が過去最も早く3/14に宣言されました。神奈川はどうなのかな？とネットで検索してみると、成長率80~90%と「開花まであと少し！」という段階のようでした。